

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27 - 51	高等学校	社会科	現代社会	全学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	現社 - 318	高等学校 新現代社会 代表著作者 浅子和美 ほか 8名		

1 編修の趣旨及び留意点

◎「物事の本質をつかみ、その解決のために公共を意識して行動できる自立した市民」を育成するための教科書

現在の社会は、グローバル化・情報化・少子高齢化が急速に進んでおり、高校生が身につけるべき知識や教養も変化している。私たちは高校生が積み重ねられてきた日本の伝統や経験をしっかりと継承できるように配慮しつつ、社会の変化をしっかりと踏まえた学習が可能になるよう意を注いだ。

その上で私たちは、これからの社会を生きていく高校生に対し、「物事の本質をつかみ、その解決のために公共を意識して行動できる自立した市民」になってほしいと考えた。現代社会におけるさまざまな課題を理解し、さらにその課題を解決して、新しい社会に合わせたしくみやモデルをつくるために行動することが必要である。そのための“行動力”を育成することができるよう、大きく以下の3つの編修趣旨を設けた。

① 現代社会を考える力が身につく教科書

- 現実社会で起きている具体事例を扱うことで、社会の課題を考える機会を数多く設けた。
- 近代立憲主義や市場経済など、現代社会のさまざまな課題を考えるために必要な基礎・基本となる内容について、多くのページを割いて取り扱い、生徒が確実に身につけられるようにした。
- ある課題について異なる主張や立場、見方があることを示すことで、現代社会の諸課題を多面的・多角的に考えることができるようにした。

② 生徒が理解しやすい教科書

- 生徒が読んで理解できるように、平易で具体例が多い本文となるようにした。
- 各見開きのタイトル脇に「ねらい」を設け、その項目で学習するねらいを明確にした。
- 各見開きには、写真やグラフ、イラストなどの視覚資料やコラムを数多く設けて、生徒が学習内容に興味をもつと同時に理解が深まるよう配慮した。また、本文行間には図版・コラムへの参照記号を入れ、本文と図版・コラムとの関連をはかりながら学習できるようにした。

③ 社会に出てから役立つ教科書

- 本文、導入事例、コラム、特設ページを通じて、日常生活で直面するさまざまな課題と具体的な対応を示し、社会に出ていく生徒にとって役立つ内容を数多く設けた。
- 選挙や裁判、消費者などの学習の後に、特設ページ「How to…」を設けて、投票の手順や民事裁判の展開、複利計算の仕方、消費者トラブルへの対処の仕方などを、具体的に取り上げた。

2 編修の基本方針 (教育基本法第2条への対応)

第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと

▶「幅広い知識と教養」について、本書では、社会のしくみや制度についての知識を得ることとともに、「なぜそのしくみがあるのか」「その制度によってどのような影響があるか」といった、意義や背景なども含めたものとして捉えた。

①幅広い知識と教養を身につけるために、青年・倫理、政治、経済、国際の各分野で、基礎・基本をおさえることができるように配慮した。

例えば、経済単元においては、経済がどのようなしくみで成り立っているのかという基礎・基本をおさえることが、その後の学習の理解に不可欠である。そのため、本書では経済活動の基礎となる市場経済の考え方について、最初の見開きで学習できるようにした。これにより、消費者の保護や労働者の権利の保障、政府による社会保障がなぜ必要なのかについても、市場経済の観点から、より深く理解できるようにしている。

②各見開きに設置した「ねらい」、「発展課題」によって、社会の諸課題に関して幅広い知識と、深い教養を身につけられるようにするとともに、見通しを立て、学習後には振り返りができるようにした。

③各見開きの本文は、具体例やたとえ話を入れて、生徒が理解しやすいような記述にした。

(例 p.134 本文 1～5 行目)

自由な競争が行われる、市場経済でも、無制限に競争することが望ましい結果をもたらすとは限らない。さまざまな競技においてルールが定められ、レフリーが主導するように、市場経済にもルールとレフリーが必要である。そのルールをつくり、レフリーの役割を果たすのが**政府**である。

▶「豊かな情操と道徳心」について、本書では、人間が他人とのつながりの中で生きていることを認識し、他者の立場でものごとを考えたり、相手に共感したり、助け合ったりすることの大切さを実感できるようにすることが重要であると捉えた。

①身近な社会と世界とのつながりを意識させることで、幅広い視野で貧困の解消と平和の実現に貢献しようとする態度を培えるようにした。→第Ⅱ部第1章 (p.36-61)、第Ⅱ部第4章第2節 (p.178-196)

(例 p.49 本文 14～24 行目)

現代社会でよく生きるにはどうすればよいのだろうか。それには、直面すべきいくつかの重要な争点がある。例えば、男女の間にある経済的・社会的格差を是正し、平等を実現することは、社会とその幸福にとって必要である。また、さまざまな事情で特定の社会や国家に帰属できない、難民とよばれる人々と友人として接することも、今日においては重要である。さらには、人間と動物や環境との関係を考え直し、その間に調和のとれた共生を実現することも、現代におけるよりよい社会をつくるためには見過ごすことのできない課題である。

現代社会でよく生きるには、他者との共生を実現する作法を身につけなければならない。

(例 p.195 本文 20～24 行目)

現代ではこうした緊張のなかで、日本の安全を確保しながら、同時に世界の平和の確立に積極的にかかわっていくことが求められている。それは決して政府のみの課題ではなく、私たち一人ひとりが「**地球市民**」として、世界が直面する課題にとりくむことが必要なのである。

②導入事例では、生徒に身近な社会事象を取り上げることで、学習内容と現実社会との関連を認識できるようにした。

→ p.134 導入「公的なサービスはいくら?」、p.172 導入「ワールドカップ開催国からみる経済」、など

第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと

▶「自主及び自律の精神を養う」ことについて、本書では、高校生が興味関心を高めて主体的に学習に取り組み、自分なりの意見や考えをもてることが重要であると捉えた。

①特設ページ「現代社会の見方・考え方」(p.6-7)や「現代社会の諸課題」(p.14-15, など)では、課題の論点を確認し、さまざまな立場の考えを踏まえた上で、自分の考えをまとめたり、表現したりする活動を通じて、個人の価値を尊重し、その能力を伸ばして、創造性を培えるようにした。

→ p.22-23 現代社会の諸課題「これからの日本の発電エネルギー」、p.60-61 現代社会の諸課題「ときには嘘をついても許されるのか」、など

▶「勤労を重んずる態度」について、本書では、働くことの意義は単にお金をかせぐだけではなく、よりよい社会をめざして、生きがいや充足感をもつことが重要であると捉えた。

①職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるよう、職業選択の考えや労働の意義などの記述を数多く扱った。

→ p.44-45 「社会参画について考えよう」、p.46-47 現代社会の諸課題「何のために働くのか」、など

第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと

▶「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力」について、本書では、異なる立場の相手を尊重する態度が重要であると捉えた。

①「幸福」「正義」「公正」の在り方と考え方について理解を深めることができるような記述にした。

→ 「現代社会の見方・考え方」(p.6-7)、第II部第1章(p.36-61)

(例 p.7 本文3～5行目)

自らの「幸福」を求めようとする際に、他者や社会全体の「幸福」と対立する場合がある。その際には、何が「正義」であるかを考えることが重要である。

②男女の平等について、男女共同参画社会や男女雇用機会均等法の意義を明確に示し、正しく理解できるようにした。

→ p.42-43 「男女について考えよう」、p.72-73 「平等権と差別」、p.152-153 「労働者の権利と労働問題(1)」、など

▶「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画」について、本書では、現代社会にはさまざまな課題があり、それらに人々がどのように取り組んでいるのかを理解し、将来社会に参画していく責任があることを自然と理解できることが重要であると捉えた。

①人間は社会的存在であることを示すことで、社会全体の利益のために尽くしたり、国や社会の問題を自分自身の問題として考えたりしようとする公共の精神を養えるようにした。

→特設ページ「現代社会の見方・考え方」(p.6-7)、第II部第1章(p.36-61)

(例 p.53 本文20～23行目)

このように、現代社会では、公正や正義が問われてくるのは、他者との関係においてである。その際に求められるのは、一方的に自分の正義を押しつけるのではなく、具体的な場面で個別的なものを通じて、他者に寄り添おうとする繊細な態度なのである。

②高校生が協力しながら、主体的に社会の形成に参画し、社会が発展しているようすを写真、資料などと共に取り上げた。

→ p.44 導入「被災地で支援活動をする高校生ボランティア」

③社会人として自立していくことを通して、社会参画の大切さが理解できるような本文記述をした。

→第II部第1章(p.36-61)

(例) p.45 本文 19～23 行目

職業に就くことを含めて、働くことは**自己実現**の一つの重要なあり方である。自己実現は、自分だけの幸福を達成するものではない。それは社会の形成者として、社会をともに支え合い、社会の幸福に寄与することでもある。自己実現とよりよい社会とは、車の両輪のように切っても切り離せないのである。

④日本人が国境をこえて社会の発展のために寄与している事例を取り上げた。

→ p.146 導入「環境技術を海外へ 企業の挑戦」、p.175 コラム「青年海外協力隊」、など

第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと

▶「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度」について、本書では、公害の克服や地球環境問題に対する日本や世界の取り組みについて理解し、環境の保全に寄与する態度を養うことが重要であると捉えた。

①地球規模で広がる環境問題と、地球温暖化への国際的な対応、南北問題と環境問題の関係、環境問題解決のために私たちができることについて、資料、本文で取り上げた。また、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うために、政治、経済、国際の各単元でも地球温暖化などの内容を盛り込み、環境問題に対する意識を高めることができたようにした。

→ 第1部 テーマ 環境 (p.8-15), p.20-21「持続可能な社会に向けて」、p.80-81「広がる人権の考え方」、p.146-147「公害対策と環境保全」、p.172-173「新たな国際経済の秩序」、など

②科学技術の発達と医療技術の進展を踏まえ、生命の尊さを考えることができるような事例や資料を取り上げた。

→ p.24 導入「出生前診断の是非」、p.28-29 現代社会の諸課題「もしも家族が脳死状態になったら」、など

③高度経済成長期に発生した公害とその影響、公害の克服について、事例や資料を取り上げた。

→ p.147 コラム「イタイイタイ病 全面解決への道のり」

第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐぐんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと

▶「伝統と文化を尊重」について、本書では、日本の伝統文化や宗教とともに、日本人が長い歴史のなかで培ってきた勤労さや協調性など、世界にほこるべき資質の理解が重要であると捉えた。

①伝統と文化を尊重し、我が国の郷土を愛する態度を養うために、日本の伝統文化や思想の源流に関する記述を重視した。

→ p.56-57「日本人の思想について考えよう」、p.58-59「日本の伝統と文化について考えよう」、p.180-181 特設「領土とは何か？」

▶「他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度」について、本書では、日本の領土や領域についての理解を深め、平和構築に向けての取り組みを知ることが重要だと捉えた。そして、これからの日本では、さまざまな主体による国際協力が重要である点も強調した。

①宗教や民族の学習などを通して他国の文化を尊重すること、異文化理解の大切さについて理解できるようにした。

→ 巻頭Ⅲ「はじめに」、p.48-49「生きることについて考えよう」、p.52-53「他者と共に生きることを考えよう」、第Ⅲ部 (p.197-207)

②日本の領土や領域について理解を深めることができるよう、日本の領土に関する記述を重視した。

→ p.180-181 なるほど法学教室「領土とは何か？」

3 教育基本法第2条との対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第Ⅰ部 現代社会の諸課題とそのとらえ方	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模で広がる環境問題と、地球温暖化への国際的な対応、南北問題と環境問題の関係、環境問題解決のために私たちができることについて、資料、本文で取り上げた。(第4号) 科学技術の発達と医療技術の進展を踏まえ、生命の尊さを考えることができるような、事例や資料を取り上げた。(第4号) 	<p>p. 8-15 p. 20-21</p> <p>p. 24-29</p>
第Ⅱ部 現代社会のしくみと私たちの生き方 第1章 現代の社会と自己実現	<ul style="list-style-type: none"> 身近な社会と世界とのつながりを意識させることで、幅広い視野で貧困の解消と平和の実現に貢献しようとする態度を培えるようにした。(第1号、第5号) 働くことの意義と社会参画についての見開きを設けて、勤労を重んずる態度と自立の精神を養えるようにした。(第2号) 社会人として自立していくことを通して、社会参画の大切さが理解できるような本文記述をした。(第3号) 日本の伝統文化について、身近な年中行事や通過儀礼、伝統芸能の事例を取り上げて具体的に学習し、伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度を養えるようにした。(第5号) 	<p>p. 36-61</p> <p>p. 44-47</p> <p>p. 36-61</p> <p>p. 58-59</p>
第2章 現代の民主政治と民主社会の倫理	<ul style="list-style-type: none"> 基本的人権を守るための考え方である近代立憲主義について、部の最初で取り上げ、以後の学習に生かせるように構成し、国民主権を担う公民として必要な基礎的素養を培い、主体的に社会の形成に参画する態度を養う基礎とできるようにした。(第3号) 男女の平等について、男女共同参画社会や男女雇用機会均等法の意義を明確に示し、正しく理解できるようにした。(第3号) 政治参加の重要性についての記述を多くした。(第3号) 	<p>p. 62-67</p> <p>p. 72-73</p> <p>p. 84-85 p. 106-107</p>
第3章 現代の経済と国民の福祉	<ul style="list-style-type: none"> 契約の原則や消費者保護法制について記述し、自立した消費生活に必要な基礎知識を得られるようにした。(第2号) これからの日本の財政のあり方を、納税者の役割を踏まえて考えさせるようにし、納税者として主体的に社会に参画する態度を養えるよう配慮した。(第3号) 	<p>p. 144-145 p. 148-151 p. 136-137</p>
第4章 現代の国際社会と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> 身近な社会と世界とのつながりを意識させることで、幅広い視野で貧困の解消と平和の実現に貢献しようとする態度を培えるようにした。(第1号、第5号) 日本が国際社会で果たしている役割、特に、唯一の被爆国としての役割や、経済協力など求められる役割について理解できるようにした。(第5号) 日本の領域・排他的経済水域をわかりやすく示した。(第5号) 	<p>p. 178-196</p> <p>p. 188-191 p. 194-195 p. 180-181</p>
第Ⅲ部 共に生きる社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> 課題追究学習を通して、自主的に創造活動に取り組めるようにした。(第2号) 環境を守り、「持続可能な社会」を形成することが大切であることを、世界文化遺産に登録された富士山の美しい姿とその文化を後世へ引きついでいくことと、あわせて示した。(第4号) 	<p>p. 198-207 p. 198</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> 日本にある世界遺産を表で示した。(第5号) 	<p>巻末 I</p>

4 記載事項以外に意を用いた点や特色

①すべての生徒に読みやすい表現の工夫

- 見開きにおけるデザインや、グラフ・地図といった資料において、色覚に特性のある生徒でも識別できる色を使うよう配慮した。グラフや地図の区分には、極力模様など入れず、配色のみで区別できるようにした。また、グラフはその範囲をはっきりさせるために、背景に地色を入れるなどの工夫も行い、すべての生徒が読み取りやすい表現にした。
- 本文などでは、文字をはっきりと読み取ることができるユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用した。

②環境に優しい素材と堅牢な造本

- 紙には古紙を入れるとともに、環境に優しいフレッシュパルプを使用している。一方で写真がきれいに見えるよう、白くて裏映りが少ないものを使用している。
- インクには国産米の米ぬかからつくられるライスインキを使用している。
- 使用期間の間、壊れることがないように、堅牢なつくりをしている。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27 - 51	高等学校	社会科	現代社会	全学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	現社 - 318	高等学校 新現代社会 代表著作者 浅子和美 ほか 8 名		

1 編修上特に意を用いた点や特色

「物事の本質をつかみ、その解決のために公共を意識して行動できる自立した市民」
を育成するための教科書

高校生が将来社会に出たときに直面するであろうさまざまな課題についての理解を深め、公共の精神を尊びながら、自立した市民として主体的に社会の形成に参画する意識を育めるよう、以下のような特色をもった教科書を編修した。

一本書の特色一

- 特色 1 身近な題材と丁寧でわかりやすい解説から、社会のしくみを解き明かす工夫
- 特色 2 現実社会の課題について、多様な立場を示し、多角的に考える力を身につけられるよう配慮
- 特色 3 教室で現実社会を疑似経験できるよう、高校生が将来直面する場面を数多く提示
- 特色 4 多彩なビジュアル資料から、情報を読み取る力を身につけられるよう配慮
- 特色 5 スムーズな授業展開をサポートする紙面構成

特色 1 身近な題材と丁寧でわかりやすい解説から、 社会のしくみを解き明かす工夫

①生徒が読んで理解できるように、平易で具体例が多い本文となるようにした。

現代社会においては、抽象的な概念・用語が数多く登場するため、社会のしくみや制度を理解することが難しい。そこで、できるだけ具体的にかつ平易な言葉で記述することを心がけ、生徒一人でも学習できるように配慮をした。

(例 p.162 本文 1～6 行目)

みそやとうふの原料となる大豆は、和食には欠かせないものであるが、その多くはアメリカなどから輸入されている。他方で、アメリカやアジア諸国では多くの日本製自動車走っている。このように、自国にないものや相対的に得意でないものを他国から買い、他国には得意なものを売ることで、おたがいの利益とするのが貿易である。

②近代立憲主義や市場経済など、現代社会のさまざまな問題を考えるために必要な基礎・基本となる内容について、多くのページを割いて取り扱い、生徒が確実に身につけられるようにした。

近代立憲主義や市場経済などは、現在の政治・経済システムの根幹をなす概念であり、これらの概念を理解することで、現代社会のさまざまな問題への理解が深まる。そこで、これらの内容に多くのページを割いて、具体的に解説することで、生徒がそれ以降の学習項目への理解をより深めることができるようにした。

例えば、政治分野では、p.62-63「近代立憲主義の原理」で、国家権力による干渉から基本的人権を守るために、近代立憲主義という考え方があることを学習する。p.64-66「近代立憲主義の広がり」では、イギリス・フランス・アメリカの近代市民革命により近代立憲主義の時代が始まったことと、その考え方が20世紀にかけて世界に広がっていったことをおさえる。そしてp.67「民主主義のジレンマ」では、民主主義による決定が、基本的人権を踏みにじることもありうるという問題点を、ドイツのナチズムを例にして取り上げ、近代立憲主義の意義への理解を深める。これにより、その後の憲法改正などの学習項目への理解をより深めることができる。

また、経済分野では、p.116-117「経済活動と市場経済の考え方」で、私たちの経済は市場経済というしくみによって成り立っていることと、経済を考える上で基本となる希少性、トレードオフ、機会費用の考え方を学習する。p.118-120「市場のメリットと限界」では、効率的な資源配分が実現されるという市場経済のメリットと、公共財や外部性などによる「市場の失敗」があることをおさえる。p.121「資本主義の変遷」では、市場経済における政府の介入の難しさについて、歴史的経緯をふまえて理解を深める。

③現実社会で起きている具体事例を扱うことで、社会の課題を考える機会を数多く設けた。

各見開きのタイトル下に「導入」を設けて、実社会で起きている出来事と、学習項目を関連させることができるようにした。

(例 p.10 導入「パーム油から考える熱帯林の伐採」)

アイスクリームや洗剤など、私たちの身近な製品に使われているパーム油が、熱帯林の開発によって供給されていることを学習し、人間の活動が環境問題を引き起こしていることと、私たち自身も無関係ではないことを認識させる。

④特設ページ「なるほど法学教室」「なるほど経済教室」を設け、法や経済の考え方をていねいな解説文によって理解できるようにした。

特設ページ「なるほど法学教室」では、現代社会のさまざまな問題を「法」の視点から考えられるようにしたり、身のまわりにある法制度について、その考え方と適用のされ方が理解できるようにしたりした。特設ページ「なるほど経済教室」では、理論的な理解を要する市場経済やGDP、金融政策、為替などを学習する見開きの直後に配し、具体例な数値や事例などを用いながら、日本経済の状況と関連させて解説するなどの工夫をした。

特色2 現実社会の課題について、多様な立場を示し、多角的に考える力を身につけられるよう配慮

①ある課題について異なる主張や立場、見方があることを示す本文となるようにした。

現実社会の課題を解決するには、異なる主張や立場、見方があることを認識したうえで、メリット・デメリットをふまえ、おたがいが納得できる解決策を見いだす必要がある。その現実社会の課題を生徒が社会の一員として考え、解決していくことができるよう、多くの主張や立場、見方を紹介するように心がけた。

(例 p.167 本文 19～22 行目)

現在、WTOの加盟国数は160をこえる。しかし、農業分野では、市場開放をめぐる先進国間で対立がある。農業分野以外でも、関税を削減して市場を拡大したい先進国と、国内産業を保護しつつ関税収入を確保したい発展途上国との間で意見の相違がある。

②特設ページ「現代社会の見方・考え方」や「現代社会の諸課題」を設け、社会の課題を多面的・多角的に考えることができるようにした。

特設ページ「現代社会の見方・考え方」では、現代社会の諸課題には複数の主張が存在し、それらを「幸福」「正義」「公正」の概念を用いて考える必要があることを示した。また、特設ページ「現代社会の諸課題」を各節末や章末に配置し、今まで学習した内容と関連する今日的なテーマを一つ設定して、課題追究学習ができるようにした。

とくに「現代社会の諸課題」では、見開きの上部に、生徒の判断材料となるような写真やグラフなどの資料を多数掲載した。下部には、生徒の考える手引きとなるように、「テーマの論点の確認」→「テーマに対する複数の主張」→「テーマに対する自分の考えのまとめ」の流れを重視した本文を配置した。この一連の流れから、「幸福」「正義」「公正」の考え方を習得できるようにした。

③ある課題に関する賛成と反対の意見を示した「Yes No」を設け、生徒が考えるための材料となるようにした。

→ p.13 Yes No「京都メカニズムについて」、p.168 Yes No「EUの進展について」、など

④各見開き右ページ下に「発展課題」を設置し、グループ・ディスカッションやグループ・ワークなどの課題解決型の能動的学習（アクティブ・ラーニング）ができるようにした。

→ p.27 発展課題（家族や友人が大きな障がいを抱えた場合の接し方について）、p.185 発展課題（テロリズムの背景について）、など

特色3 教室で現実社会を疑似経験できるよう、 高校生が将来直面する場面を数多く提示

①本文、導入事例、コラム、特設ページを通じて、日常生活で直面するさまざまな課題と具体的な対応を示し、社会に出ていく生徒にとって役立つ内容を多く設けた。

→ p.123 コラム「インフレ・デフレが生活にもたらす影響」、p.153 コラム「私たちと労働基準法」、など

②選挙や民事裁判、消費者などの学習の後に、特設ページ「How to…」を設けて、投票の手順や民事裁判の展開、複利計算の仕方、消費者トラブルへの対処の仕方などを具体的に取り上げた。

→ p.97 How to…「身近な争いをどう解決する？」、p.106-107 How to…「選挙に行こう」、
p.150-151 How to…「賢い消費者になろう」、など

③実社会の人々の「声」を掲載し、共感を抱きながら社会参画への意識を高められるよう配慮した。

→ p.27 「障がいをもった人の声」、p.44 「ボランティアに参加した高校生の声」、など

特色4 多彩なビジュアル資料から、 情報を読み取る力を身につけられるよう配慮

①各見開きには、写真やグラフ、イラストなどの視覚資料を数多く設けて、生徒が自らの力で情報を読み取り、視覚的に理解できるようにした。

→ p.86-87 導入「法律ができるまで」、p.142-143 現代社会の諸課題「消費税率はどこまで引き上げるべきか」、など

②特設ページ「概観しよう！」を設け、「今」の日本政治や日本経済を、戦後からの変遷を通して概観できるようにした。

戦後から現在にいたるまでの日本政治や日本経済の学習は覚えるべき事項が多く、用語の暗記に陥りやすい。そこで、p.108-109 概観しよう「日本政治の変遷」、p.138-141 概観しよう「日本経済の変遷」において、写真やグラフなどの視覚資料を多用し、戦後からの日本政治や日本経済の流れが端的に把握できるようにした。

特色5 スムーズな授業展開をサポートする紙面構成

①各学習項目を原則2ページ（1見開き）構成とした。また、（1）学習のねらいの確認→（2）具体事例を用いた導入→（3）本文での展開→（4）発展課題への取り組み、の4段階に構造化して学習の流れを整理した。

②本文内容を補足する「補足解説」「キーワード」を数多く配置し、生徒が読んで十分に理解できるようにした。

③本文行間には図版・コラムへの参照記号を入れ、本文と図版・コラムとの関連をはかりながら学習できるようにした。

2 学習指導要領との対照表と配当授業時数表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	箇所	構成・内容の特色	配当 時数
第Ⅰ部 現代社会の諸課題と そのとらえ方	(1)	p.5- 34	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの生きる現代社会は、さまざまな問題があり、複数の主張が対立していることを学習する。 p.6-7に特設ページ「現代社会の見方・考え方」を設けて、現代社会の諸課題の特色と、そのとらえ方を「幸福」「正義」「公正」をキーワードにして考えることができるようにした。 「環境」はp.8-15、「人口・資源・エネルギー」はp.16-23、「生命」はp.24-29、「情報」はp.30-34で扱い、問題提起となるような本文記述を心がけた。 「環境」「人口・資源・エネルギー」「生命」「情報」のそれぞれの学習の最後には、特設ページ「現代社会の諸課題」を設けて、現代社会で起こりうるさまざまな問題を考えることができるようにしている。 	9
第Ⅱ部 現代社会のしくみと 私たちの生き方 第1章 現代の社会と 自己実現	(2) ア	p.35- 61	<ul style="list-style-type: none"> 私たちが生きる社会はどのようなものであるかを理解し、社会の形成者としてどうあるべきかを学習する。 第1節では、青年期の意義と自己実現について考え、社会参画の意識を高めることをねらいとした。 第2節では、人々の生き方や宗教の在り方、思想や伝統文化について考え、私たちの参画すべき社会は、どのような社会であるのかを理解できるようにした。 	10
第2章 現代の民主政治と 民主社会の倫理	(2) イ、ウ	p.62- 115	<ul style="list-style-type: none"> 民主社会の意義と政治システム、法の考え方を理解し、民主社会を維持するためにどのようなことをしなければならないのかを学習する。 第1節では、人類が築いてきた民主社会がどのようなものであるかを示し、それらが日本国憲法ではどのように体现されているかを示す。特に、民主社会の基礎となる「近代立憲主義」や「法」（特設ページ「なるほど法学教室」など）についての記述を充実させた。 第2節では、日本国憲法の内容が実社会ではどのような統治機構として機能しているのかを示した。特に、司法については、特設ページ「なるほど法学教室」「How to…」を含めて充実させた。また、これらの学習を踏まえて、現実の日本の政治の課題を具体的にとらえることができるようにした。 	18
第3章 現代の経済と 国民の福祉	(2) エ	p.116- 161	<ul style="list-style-type: none"> 市場経済のしくみを理解し、市場経済の中でどのように生き、そしていかにして市場経済を正常に機能させていくかを学習する。 第1節では、市場経済がどのようなものであるかを示した上で、景気変動や企業の生産活動、金融の意義や政府の役割を解説した。特に、家計、企業、政府の主体間の関係性の記述を充実させた。また、これらの学習を踏まえて、現実の日本の経済の課題を具体的にとらえることができるようにした。さらに、経済活動における私法の役割についても触れるようにした。 第2節では、市場経済を正常に機能させるために、消費者・労働者・社会保障制度などがどうあるべきかを示した。特に、特設ページ「How to…」で、生徒が遭遇しうる場面の対応方法を具体的に記述した。 	13
第4章 現代の国際社会と 日本の役割	(2) オ	p.162- 196	<ul style="list-style-type: none"> 国家の枠をこえた多様な価値観が混在する国際社会の中で、相互に尊重し合いながら、いかにして民主社会、市場経済を機能させていくべきかを学習する。 第1節では、市場経済が国際社会ではどのようなルールのもとに行われており、国内経済とどのように異なっているのかを示した。特に、新興国の台頭などの国際情勢の変化や、南北格差・経済援助の在り方などの記述を充実させた。 第2節では、国家間でいかにして民主社会を構築していくかを示し、国際平和の実現にはどのような課題があるのかを理解できるようにした。特に、国際平和の実現に向けて、「人間の安全保障」の考え方を具体的に提示した。 	14

<p>第Ⅲ部 共に生きる社会をめざして</p>	<p>(3)</p>	<p>p.197-207</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習を活用し、持続可能な社会の形成をテーマに、自ら課題設定をして調査追究を行う「課題追究学習」を実践する。 ・p. 198 では、持続可能な社会の形成がなぜ必要であるかを示した。 ・p. 199-207 では、課題追究学習の具体的な手順やスキルを学習できるようにした。課題追究学習の具体的な事例のテーマは、これまでの学習してきた内容を横断し、かつ持続可能な社会の形成に合致するものとして、「日本の外国人労働者の受け入れについて」とした。なお、各見開きを、1～2コマの授業時間数で個別に実践できるようにした。 	<p>6</p>
				<p>計 70 時間</p>